

令和6年度 グーフィークラブ事業計画

1. 概要

①運営目標

- 近隣の小学校に通う子どもたちの減少により放課後利用の希望者は少なくなっていますが、利用者の中には生活面や学習面でサポートが必要な子どもが複数在籍しているため少人数の利点を活かし一人ひとりに丁寧な関わりを持つよう努めます
- 学校の春・夏・冬休みなどの利用者は増加傾向にあり、できる限りその希望に添えるよう受け入れを行います
- 学童担任をリーダー格として勤務していた大阪教育大学大学院生2名が大学院卒業とともに昨年度3月末で退職となりました。令和6年度は昨年度から引き続き大阪教育大学大学の学生3名に加え同大学の学生2名が入職しました
昨年度作成した活動マニュアル、チェックリストを活用するとともに、常に担任間で「ほうれんそう」を大切にし、昨年に引き続き子どもたちが安心して楽しく過ごせる場を提供できるよう心掛けます
- 園内年長児クラスとの交流を行い、園児の就学に対する意識づけのサポートをする役割を担います

②定員 20名

必要に応じて単発利用も受け入れます

③事業日数 291日 (日曜、祝日、園行事、12/30～1/4は休園)

④開所時間

平日 7:00～19:00 (7:00～8:30・18:00～19:00は延長)

土曜 7:00～18:30 (7:00～8:30・18:00～18:30は延長)

⑤職員数 学童保育指導員 2名 (教員免許または保育教諭資格有) アルバイト指導員 4名 (大阪教育大学学生)

2. 事業運営

①教育理念

- 放課後の生活を安全に守り、基本的な生活習慣の指導や学習の習慣づけの援助を行う
- 子ども同士共働しながら生きる力を育む

②教育方針

1. 生活の流れを把握し、リーダーを中心に子ども主体の活動を行いコミュニケーション力をつける

1. 正しい生活習慣を定着させる

1. 他律から自律へと成長していく過程を援助する

1. 個々の存在を認める

③学年別目標

1、2年生

●大事なことを聞く力、話題に沿って話し合う態度を身につける

●集団の一員として自分の役割について気づき、適切な行動ができるようにする

3、4年生

●筋道を立てて話す力、聞く力、話し合う力を身に着ける

●目的を持って仲間とともにやり遂げる力を育む

④職員配置 学童保育指導員 2名（教員免許または保育教諭資格有）

アルバイト指導員 4名（大阪教育大学学生）

⑤活動内容

●活動マニュアル、チェックリストを基に職員間の認識を一本化し活動を行います

●子どもたちが主体的、対話的、意欲的に生活や遊びを作り上げ、協力し合い、発展させながらコミュニケーション力を育む活動を行います

●子どもが自主的に学習に取り組めるように習慣づけ、学校の宿題を中心に学習指導を行います。

●生活面、学習面において支援が必要な子どもには個人の困りごとを見極め子どもの自立に向けたサポートに努めます

●戸外での活動を多く取り入れ思いきり身体を動かし遊びの充実を図ります

●週2回、大阪教育大学サッカー部の大学生指導のサッカー教室を行います
学童クラブ担任以外の大阪教育大学サッカー部の大学生4名が指導に来てくれる予定をしています

●季節行事の製作や園内行事を通して日本や外国の伝統や文化、風習などを学びます

●乳幼児クラスに入り一緒に遊んだり、職員の手伝いをする事で自己肯定感を高めま

●学校の春・夏・冬休みは利用者数が増えるため、グループに分け少人数で落ち着いた環境の中で活動が行えるよう職員配置も考慮していきます

●当園の年長児が安心して学校生活に円滑に移行していけると共に、学童クラブの子どもたちが自分の成長に気づき、自信に繋がるような交流活動を行います

- 野外活動として大阪教育大学に行き学内探検やスポーツを通して大学生との関りを持つ交流を行うことで社会性を身に付け、将来像を描くことができることを期待します

⑥家庭との連携

- 活動内容を報告する「おたより」、保護者へのお知らせはその都度配布します
- 一人ひとりの様子（子どもの表情や行動など）をしっかりと把握し、少しでも普段と違う様子が見受けられたときは、子どもの話に耳を傾け、その状況を保護者や担任同士共有するように努めます
- 連絡帳、お迎え時などを通し、子どもの活動や様子を伝えるとともに、気になる子に関しては随時面談を行います
- 年に2回個人面談を行い家庭、学校、学童クラブでの子どもの様子を共有します

⑦人材育成

- 職員の資質向上及び専門性の向上を図るため、園内研修・園外研修へ参加します
- 活動マニュアル、チェックリストの読み合わせや必要に応じて書き加えなどを担任間で行います

⑧地域貢献

- 瓢箪山公園の清掃やゴミ拾いなど環境美化の取り組みを行うことにより、社会生活との関わりを持ち、「地域の一員であること」「ごみの無いきれいな地球を大切にする気持ち」を養うとともに、地域や人の役に立つ喜びを感じ、日常の小さなことでも繰り返し続けることの重要性を育んでいけるような活動にしていきたいと考えています
- 出張保育、園庭開放の手伝い、地域の乳幼児との関わりも大切にします
- 地域の小学生の親子に対して相談対応を行います

⑩リスクマネジメント

- 職員全員が子どもたちと一緒に学校から園までの下校路を確認し、危険な場所を把握しておきます。
また普段より帰りが30分以上遅い子どもは保護者に伝え学校と連絡を取ってもらいます。遅く帰ってきた子どもには事情を聞き、通学路や帰園時間を守る大切さを伝えていきます
- 学校から園までの帰り道で不審者や危険を感じたことは帰園後すぐに子どもから職員に報告するように子どもたちに伝えてあり必要に応じて保護者、学校に連絡を入れるようにします

- 子ども同士のトラブルや危険行為などに関してはなぜ危険なのかを一緒に考えたり、改善方法を当事者同士やクラス全体で話し合いを行います
- 怪我や事故には十分に注意をはかりますが、起こってしまった場合については子どもたちに適切な指導をするとともに、原因を究明し、再発の防止に努めます。
また、必要に応じて迅速に保護者への連絡と医療機関への受診をします
- 園の避難訓練に参加し、災害時の避難場所、避難方法などについて子どもたちと一緒に体験し災害時の行動について学習します
また職員同士、園の避難マニュアルを基に想定できるリスクや具体的な対処法を話し合いを行い、子どもたちの安全確保を周知していきます
- 近隣での不審者情報や警報発令時は子どもだけの降園はさせず、保護者に送迎を要請します
- 感染症の知識や感染拡大防止については常に子どもたちに手洗い、手指消毒、うがいの大切さを伝え、流行の兆しが見え始めたときには保護者にもお知らせをして、最小限の感染で収まるよう努めます

⑩苦情解決

- 常日頃から送迎時に保護者との会話を心掛け、個人面談、連絡ノート、アンケートなどで保護者の意見を聞きとるなど関係性を深めるよう努めます
- 「苦情申し出窓口」（指導員が受付担当者）、「御意見箱」を玄関に設置し、頂いた意見や要望については概ね24時間以内に回答し、活動に反映させます。尚、回答については掲示板や広報に掲示をします